



- ▶ 研修医数 1年目 10名、2年目 10名
- ▶ 昨年度マッチング受験者数 55名
- ▶ 研修医の主な出身大学

【2024年度入職 -10名-】  
秋田大学、岩手医科大学、福島県立医科大学、獨協医科大学、東京医科大学、信州大学、高知大学、佐賀大学  
【2023年度入職 -10名-】  
秋田大学、東北医科薬科大学、筑波大学、国際医療福祉大学、杏林大学、帝京大学、東京女子医科大学、日本大学、島根大学、九州大学

### 研修プログラムの特色

患者中心の医療を行い地域社会に貢献する医師となるべく、「医師としての良識とチーム医療を実践できる能力を身に付けること」「将来専門とする分野にかかわらず、医師として必要な診療に関する基本的知識、技術、問題解決力を習得すること」を研修の理念としています。

地域の中核的な超急性期病院である当院では、救急患者や緊急入院が多く、また複数の医学的問題を抱えた高齢者の入院が多いことが特徴の一つです。臓器にとらわれない「Generalistの視点」で救急から入院初療、退院まで一貫して関わり、退院後のケアや患者家族の心情までも配慮できる「主治医としてのマネジメント能力」の礎となる研修を行っています。

#### プログラム例 埼玉石心会病院臨床研修プログラム / 募集定員: 10名

	1-4週	5-8週	9-12週	13-16週	17-20週	21-24週	25-28週	29-32週	33-36週	37-40週	41-44週	45-48週	49-52週
1年目	内科 (24週: 総合診療科 8週、消化器内科 8週、循環器内科 8週)						外科 (8週: 消化器外科+乳腺・内分泌外科)		外科系 (4週)	自由選択 (4週)	救急科 (4週)	救急科 (4週)	麻酔科 (4週)
2年目	集中治療科 (4週)	地域医療 (4週)	小児科 (4週)	産婦人科 (4週)	精神科 (4週)	自由選択 (最大 32週)							

- ローテーションは研修医ごとに異なる
- 1年目の研修内容は2年目の4月末まで
- 必須「救急科」研修に加え、週1回半日の「救急科」並行研修(救急当番)を2年間通して実施
- 外科系 (4週) ※右記より選択 (整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、泌尿器科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、救急外科)
- 「小児科」「産婦人科」「精神科」「地域医療」は臨床研修協力病院・協力施設で研修
- 自由選択 (1年目: 4週+2年目: 最大 32週) ※下記より選択 (最低1診療科4週以上)  
総合診療科、腎臓内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、糖尿病/内分泌・代謝内科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、脳神経外科、救急科、心臓血管外科、形成外科、麻酔科、泌尿器科、リハビリテーション科、集中治療科、救急外科

#### ■ 研修医の処遇

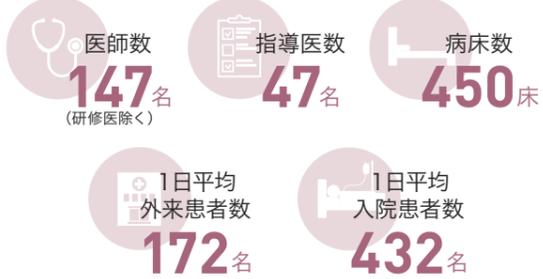
給与	1年目: 40万円/月、2年目: 45万円/月 ※別途 諸手当支給	休暇	1ヶ月単位の変形労働制(公休8日/月 ※1月のみ9日)、 当直明け休暇、夏季休暇(2日)、 有給休暇(1年目: 10日、2年目: 11日)、慶弔休暇
諸手当	当直手当、時間外手当 通勤手当、扶養手当	宿舎	なし(病院から徒歩30分圏内に居住) ※家賃補助(半額・上限10万円)あり
保険	健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険	その他	職員専用レストラン、研修医室(自机・書棚)、図書室 学会・研修等の参加費補助(10万円/年)、 学会休暇(6日/年)、保養宿泊施設、娯楽施設 など 保育室(0~3才)
勤務時間	平日 8:30~17:00 / 土曜 8:30~12:30		
当直	あり(4~6回/月)		

#### ■ 主な臨床研修協力病院・協力施設

- 埼玉医科大学病院 (小児科、産婦人科、精神科)
- さいたま市民医療センター (小児科)
- 川越同仁会病院 (精神科)
- 済生会川口総合病院 (小児科、産婦人科)
- 西埼玉中央病院 (産婦人科、小児科)
- 南魚沼市民病院 (地域)
- 埼玉医科大学総合医療センター (小児科)
- 埼玉病院 (産婦人科)
- 知床らうす国民健康保険診療所 (地域)
- 宮古島徳洲会病院 (地域) 他

### ■ 病院の概要

NPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)による認定 / 無



#### ■ 診療科

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、神経内科、感染症内科、人工透析内科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科 (33診療科)

#### ■ 主な認定施設

地域医療支援病院、臨床研修協力病院、日本病院機能評価認定施設、埼玉県がん診療指定病院、埼玉県災害時連携病院、埼玉地域 DMAT 指定病院 他

### ■ 当院の魅力

#### 2025年春 救命救急棟 完成予定!!

-救急車応需率 99%以上を維持するER総合診療センターを強化-  
「幅広い初期救急対応能力の習得」  
「頻繁に遭遇するCommon Diseaseに対する診療能力を身につける」

2年間常に救急診療に関わる  
救急科研修を1年次4週 x2回実施  
救急科研修とは別に、週1回半日の救急研修(救急当番)  
多種多様な症例に関わる  
救急車受入れ台数 約10,000件/年  
救急搬送患者・Walk-in患者のファーストタッチは初期研修医技術が身につく  
救急外来でのファーストタッチ経験数 約700件/年  
CV挿入、気胸に対する脱気・トロッカー挿入、Aライン挿入など基本的な手技も一通り経験可能  
バックアップによる安全性と細かいフィードバック  
治療方針の決定にも積極的に関わることが可能  
多彩な学習機会  
研修医向けカンファレンス、研修医同士のカンファレンスを開催  
BLS、ICLS、JMECC、JPTEC 資格取得  
縫合実習、PIC・CVCハンズオンセミナーなどで技術力向上  
各診療科のカンファレンス、病院主催の症例検討会・CPC、医療安全や医療倫理に関する講演会など多数開催  
屋根互式教育  
切磋琢磨しつつ、和気あいあいと互いにサポート  
充実した研修成果を求め、上級医・指導医に積極的に指導を仰ぐ  
「教え、教えられる」ことで厚いつながりが持てるチーム指導体制で指導医と初期研修医が互いに成長できる環境



### 女性医師支援

大切な子育てと仕事の両立をサポート  
-女性医師が働きやすい環境を整えています-

#### 保育室完備

24時間365日対応の保育室は、0才児から利用可能  
1人ひとりの成長にあわせた保育を目標に、子どもたちがのびのびと過ごせる環境

他、出産祝い金・産休・育休・育児短時間勤務・時差出勤・当直免除などあり

### 病院見学、その他イベント・説明会等の情報

【病院見学】  
訪問見学・オンライン見学 随時受付  
【選考試験】  
8月末に実施  
【出願資格】  
「訪問病院見学」「オンライン病院見学」「(当院主催) オンライン病院説明会」のいずれかに参加した方  
※詳細は当院 WEBサイトをご参照ください



### 連絡先

病院名 社会医療法人財団 石心会 埼玉石心会病院  
所属 医師人事部 研修管理課  
住所 〒350-1305 埼玉県狭山市入間川2-37-20  
TEL 04-2953-6611(代表) / 04-2953-0909  
FAX 04-2953-8040

E-mail initial-residents@saitama-sekishinkai.org  
URL https://www.saitama-sekishinkai.jp  
アクセス 西武新宿線「狭山市駅」徒歩10分

### 研修責任者 から メッセージ



研修管理委員長 / プログラム責任者

杉浦 良子

当院は「断らない医療」「患者主体の医療」「地域に根ざし地域に貢献する医療」という3つの理念をもとに、地域の急性期医療を担っています。研修医の先生は救急患者さんの初期対応、必要な検査を組み、治療方針を決めて実践するというところまで上級医の指導のもと、すべてを行っています。他診療科ローテーション中にも救急の当直や日直を担います。2年間を通じて途切れることなく救急診療に携わることで、自ら考え、行動する力が身につきます。また、当院は医師同士の診療科の垣根が低く、みな教育熱心でフレンドリーです。研修中に困ったことがあれば診療科を超えて誰にでも相談できます。是非一度見学にお越しください。お待ちしております。

### 先輩研修医 の声



研修医1年目 -2024年度入職-

児玉 絃

研修医が実施できる手技が多いことが魅力の一つ。  
救急外来でのファーストタッチ経験数は約700件/年。CV挿入、気管挿管、Aライン、胸腔穿刺、腹腔穿刺など基本的手技はもちろん、侵襲度の高い処置や手術の執刀も上級医指導のもと行うことが可能です。指導医から言われた診療をするだけではなく、その都度フィードバックを受けながら治療方針の決定にも積極的に関わることができます。「Common Diseaseを診たい」「手技をたくさん経験したい」と考えている方、当院での研修を検討してみませんか。

研修医1年目 -2024年度入職-

高田 普

「3年目以降に当直しても困らない力をつける」「Common Diseaseを診療できるようになる」この2つを初期臨床研修の目標としていたため、救急科研修の他に週1回半日の救急当番や救急科当直を行えることが魅力的でした。日々の業務の中で、救急初期対応の知識や技術が向上していると実感しています。各診療科の研修でも手技を多く経験させてもらえるので、とても勉強になっています。また、教育熱心な先生が多く、様々なテーマの研修医向けのセミナーが開催されています。